

## 日大豊山水泳部の軌跡 2

昭和 30 年代のプール開きの写真が残っている。

井上敦雄先生が中学生の頃の写真である。

後ろは護国寺だろうか。



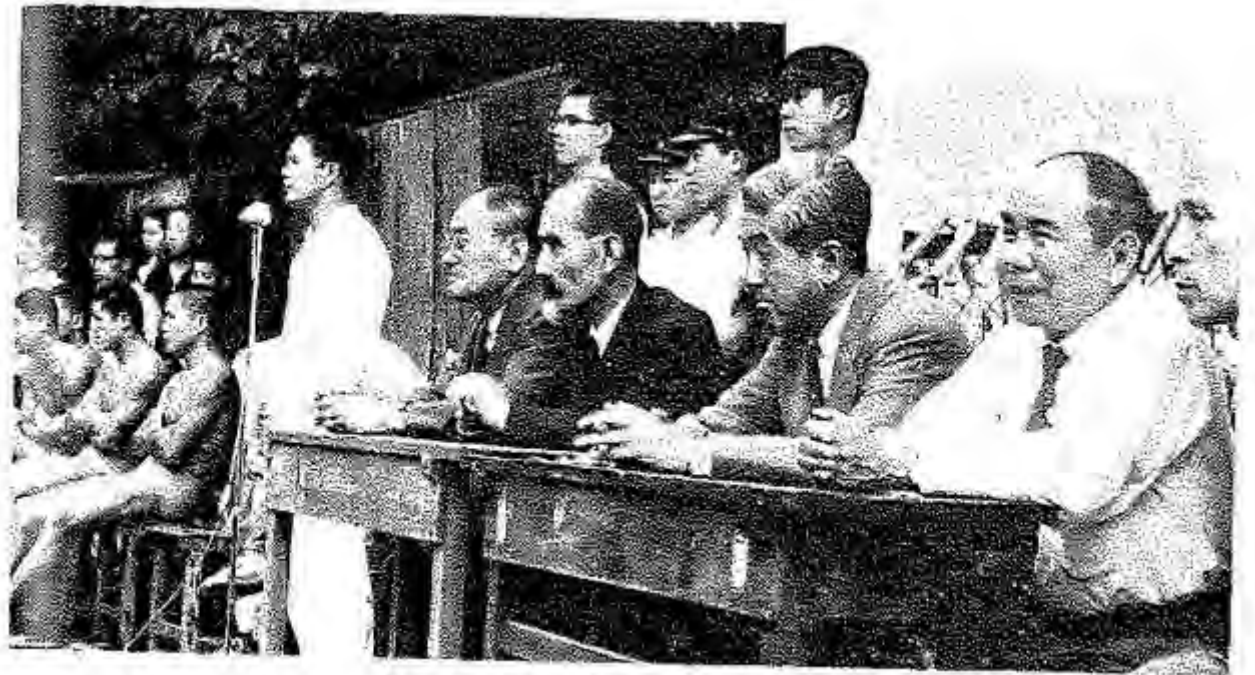
昭和31年プール開き 当時日本大学で活躍中の一流選手  
(後藤(自由型) 石本(バタフライ) 古川(平泳))  
(浜崎(背泳) 大野(自由型) 鈴木(自由型))  
を招待する。  
写真左 トレーニング姿は小谷野先生、宮川先生  
写真後列右から5人目 井上敦雄先生(坊ちゃん刈り)



昭和32年 本校プールにて水泳部員

この写真が撮影された昭和 32(1957)年は高校 3 年生の石井宏氏がインターハイで 400m・1500m自由形で優勝し、男子総合第 4 位に入賞した年である。

翌年、石井氏は第 3 回アジア大会に出場、1500m自由形で銀メダルを獲得した。



プ ー ル 開 き (34年)

写真は昭和 34 年のプール開きを見ている先生方の様子である。

中央に座って、髭をたくわえている先生は第 2 代学園長の大塚健夫先生。

昭和 35(1960)年、水泳部は関東高等学校選手権で初優勝を飾った。

そしてこの年、日本大学 3 年生であったOBの石井宏氏(昭和 33 年卒)はローマオリンピックの 800mリレーに出場、見事銀メダルを獲得した。

オリンピック壮行式の写真である。



石井選手オリンピック壮行式（35年）

『二十年誌』に井上敦雄先生が石井氏の選手時代の様子を掲載している。

「石井氏の練習熱心、頑張り方、レース度胸、競い合った時の驚くほどの強さは、私の知っているかぎり石井氏以外見たことがありません」

800mリレーの第2泳者でオーストラリアの100m自由形金メダリストのデヴィットに追い上げられた石井氏は、最後の50mで逆転し第3泳者につないだ。

第3位のオーストラリアとのトータルタイムは0.6秒差で日本チームが銀メダルに輝いたのである。

銅メダルがやっとという日本チームを石井氏の頑張りによって銀メダル獲得へ導いたといえる快挙であった。

また『二十年誌』には、石井氏の日大豊山を卒業してから15年後の回顧録が掲載されている。

「オリンピック選手を夢みて来る日も来る日も水と取り組んでいた。いうなれば、「よく泳ぎ、よく泳ぐ」が信条であり全てであった。」

4月や5月の寒いシーズンでは木造校舎の外壁を壊してたき火として寒さをしのいでいたことや皆で相談して公費でソバを食べた話が掲載されているのも面白い。

昭和34(1959)年に水泳部コーチに就任したのがメキシコオリンピックで代表コーチを務めた井上隆氏である。

当時高校2年生だった井上敦雄先生の話によると井上隆氏は独特の雰囲気を持ち、当時の水泳部員はたちまちその魅力と指導力、説得力に心酔したそうである。

さらに井上脩氏が優秀な選手の勧誘をはじめたことにより、日大豊山水泳部はチームとしての成果があらわれはじめる。

条高校、伊都  
めき、新興日  
。この年、中  
大豊山高校教  
見日出中・高  
。このあた  
認められる

対抗で活躍  
大会の800  
予選で石  
中で一番



写真右 長島氏（高3のとき）アジア大会出場  
中 井上敦雄先生（中3のとき）中学校選  
手権優勝  
左 石井宏氏（高2のとき）全国大会二種  
目優勝、アジア大会、日米対抗、ロー  
マオリンピック出場